



# 山王台だより11月号

令和元年10月31日  
横浜市立山王台小学校  
〒235-0016  
横浜市磯子区磯子5丁目2-1  
TEL045 (755) 1107

【学校教育目標】自分のよさに気づき、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる

## 涙は心の成長の糧

校長 志田 一彦

過日の運動会は、天候の関係で1日遅れの実施となりましたが、大勢のご来賓、保護者、地域の皆様のご参観をいただき、ありがとうございました。

今年は、テントの両側の場所を「立ち見スペース」とし、各学年の演技や競技等を当該学年の保護者様が優先的に前方でご覧いただけるようにしました。ご理解、ご協力いただきましたことを感謝申し上げます。また、朝早くから運営面をサポートしていただいたPTA役員や委員の皆様、片付けのお手伝いをしてくださった保護者、地域の皆様、ありがとうございました。

さて、今年の運動会は6年ぶりに白組の勝利となりました。どちらの組の子どもたちも練習の成果を存分に発揮し、演技、競技、応援などに全力で取り組んでいました。

各係の仕事にも協力して活動したり、子どもたちが中心となって開閉会式を運営したりするなど、まさに、今年の運動会のスローガンである「心ひとつに」して子どもたちがつくり上げた運動会だったと思っています。

子どもの真剣な姿ほど、心を動かすものはありません。私自身、たくさんの感動をもらい、参観された多くの方々からも温かな惜しみない拍手を送っていただきました。子どもたちも運動会をつくり上げていく楽しさや達成感、満足感を感じていたことと思います。

運動会は競技や演技を通して体力を高めることはもちろんですが、相手の健闘をたたえたり友達と協力してひとつのことをやり遂げたりするなど、人とつながることの大切さや自分の心の成長を感じることができる絶好の教育活動の場でもあります。

今年も閉会式の成績発表の際には、子どもたちの悲喜こもごもの姿が見られました。勝敗の結果に歓喜したり涙したりする姿は、全力で取り組んだ証そのものです。一生懸命に取り組んだからこそ、喜びも2倍、3倍になり、真剣に取り組んだからこそ、涙を流すほどの悔しさがあるのだと思います。

心を揺さぶられる強い感情を抱いた後は、人は必ず成長します。うれし涙、悔し涙は、心の成長の糧となるはずです。

私たち大人は、そんな子どもの心に寄り添い、頑張ったことをほめて自己肯定感を高めたり、悔しさを受け止めて気持ちの充電を図ったりして、心の成長につなげていくことが大切だと考えています。

運動会を通して、子どもたちがどんなことを学び、どんなことを感じたのか、一人ひとりの思いをしっかりと受け止めて、これからの教育活動に生かしていきたいと思っています。

運動会が終わって10日あまり経ちました。校庭には、子どもたちが繰り広げた熱戦の終わりを惜しむかのように、まだ、かすかにトラックの白線の跡が残っています。